

—第52編—ブルームズベリーの^{*1}の中産階級都市住居

3—4階建ての連続する建物と建物に囲まれた庭園広場（ガーデンスクエア）。ロンドンで17世紀に始まり18—19世紀の約200年の間に集中的に進められた、今に残る都市型住宅地開発（タウンハウス・スクエア開発）の産物である。

大英博物館やロンドン大学が立地するブルームズベリー地区に多くの土地を所有していたベッドフォード卿^{*2}。その名を冠したガーデンスクエアがベッドフォード・スクエア^{*3}



写真52-1 ガウワ―街のタウンハウス



写真52-2 中産階級タウンハウスの中庭

である（写真52—3）。この広場の近傍で道路沿いに長く連なり、都心ながら背後に緑豊かな中庭を持つ3—4階建ての都市住宅群は、当時建設された都市景観がそのまま見事に保全され、今に伝えている。（写真52—1、2）

^{*1} Bloomsbury: ロンドン中心部の1地区

^{*2} Sir Frederick Bedford (1830—1916)

^{*3} Bedford Square: 1775—1787に整備された

デイプロマが授与される6月末には、普段は閉じられているベッドフォード・スクウェアのガーデンが開かれ、盛大なパーティーが催される。どこまでもおしゃやれで国際的な建築学校を出た彼らのだれもが誇りにするイベントである。息子が5年通ったおかげで、年に一度、近傍にある都市住居を改造した定宿のホテルから訪問するのが楽しかった。



写真52-3 ベッドフォード・スクウェア



写真52-4 AA スクール校内のイベント風景

ただし、その利用形態はインテリアのコンバージョンを経て、オフィス、ホテル、学校等に変身した。スクエアに面して1848年に創立されたイギリス最古の建築教育機関であるAAスクールは^{*4}その一例で、近接する国立のUCL建築環境学部^{*5}バートレット校と優劣を競い合う。これまで、多くの名だたる世界的建築家を排出してきた。縁あって何度かここで講義をしたことがあるが、学生達の構成が徹底的に国際的であり、年齢的にも幅があるのが大きな特徴である。いわゆる大学という組織体制をとらないユニット制の建築教育は自由でかつ厳しく、世界的なネットワークを誇っている。

^{*4} Architecture Association School of Architecture

^{*5} The Bartlett, UCL (University College of London)